

2013年10月11日

## 京都コンステラ・テクノロジーズとメディクロス 医薬品有害事象情報システム事業で業務提携

株式会社京都コンステラ・テクノロジーズ（本社：京都府京都市中京区、代表取締役社長：村上 竜太、以下「京都コンステラ・テクノロジーズ」）と株式会社メディクロス（本社：東京都大田区、代表取締役社長 CEO：荘司 一郎、以下「メディクロス」）は、京都コンステラ・テクノロジーズが行う医薬品有害事象情報システム事業（以下、「本事業」）に関し、メディクロスが営業活動を中心とした業務協力を行なうことにより、本事業の拡大を図ることを目的とした業務提携にこのたび合意しました。

### ■本提携の背景と目的

京都コンステラ・テクノロジーズが現在提供している医薬品有害事象情報システム「CzeekV」は、FDA が公開している全世界の有害事象レポートデータ（FAERS）を独自にデータ整理、日本語による検索と表示を実現し、すでに製薬企業様や医療機関様にご活用いただき、シグナル検出（スコア値計算）などの機能について、高くご評価いただいています。

現在、京都コンステラ・テクノロジーズは、「CzeekV」をさらに進化させた次期バージョンを現在開発中です。次期システムは、FAERS のみでなく、国内副作用自発報告 DB（JADER）、および製薬企業様の自社 DB の登録も可能とした上で、RMP（医薬品リスク管理計画）に対応したワークフローを実現するものです。

CRO であるメディクロスは、複数の製薬企業様との取引実績を背景として、「CzeekV 次期バージョン」を中心に営業活動の協力を行います。

業務協力の範囲は顧客に対する営業行為のみにとどまらず、広報宣伝活動の協同実施、営業行為を通じた製薬企業様からのニーズの吸い上げと開発へのフィードバックなどの役割を負います。

製薬企業様による RMP は、厚生労働省からの「医薬品リスク管理計画指針」により、新たな実行ステージに入りました。

京都コンステラ・テクノロジーズとメディクロスは協働し、製薬企業様にとっての新しいソリューションである医薬品有害事象情報システムを提供してまいります。

### ■株式会社京都コンステラ・テクノロジーズについて

京都コンステラ・テクノロジーズは、京都大学発ベンチャーとして2008年3月に設立いたしました。京都大学薬学研究科・奥野恭史教授の技術をコア技術とし、製薬企業・研究所の創薬研究支援事業、医薬品の副作用情報などのデータベース検索システムの開発など、最先端の計算科学技術を用いて独自のサービス・製品を提供しています。

企業ホームページ：<http://www.k-ct.jp/>

■ 株式会社メディクロスについて

メディクロスは、東京都大田区に本社を置き、CRO（医薬品開発受託機関）として 2007 年に創業いたしました。メディクロスの社名は、新薬開発において製薬企業様と患者様の間を橋渡しする（Cross Bridges）こと、を由来としています。迅速かつ最高品質の CRO 業務を提供するため、モニターを始めとする社員一人ひとりが自立したマネジメント能力を発揮できるよう、教育研修と人財育成に力を注いでいます。

企業ホームページ：<http://www.medicross.co.jp/>

■ 本件についてのお問い合わせ先

株式会社京都コンステラ・テクノロジーズ

担当：五島（ごとう）

電話：075-241-9672

E-mail：goto@k-ct.jp

株式会社メディクロス

担当：小清水（こしみず）

電話：03-4500-4666

E-mail：t-koshimizu@medicross.co.jp

以上